

不登校児童生徒のこと、 一緒に考えてみましょう

文部科学省が発表した「令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」では、小・中学校における不登校児童生徒数は全国で約34万6千人に上るとされています。この調査で特に注目したいのは、以下の項目です。

90日以上欠席している児童生徒

【小学校】57,611人（44.2%）

【中学校】132,781人（61.4%）

※（ ）不登校児童生徒全体に占める割合

学校内外の機関等で専門的な相談・指導等を受けていない児童生徒

134,368人（38.3%）

※（ ）不登校児童生徒全体に占める割合

登校日数が少なく学習指導を十分に受けられていない子どもや、学級担任以外とつながっていない子どもの存在が心配されます。こうした状況を受け、村山教育事務所では、子ども一人一人の状況に応じて多様な教育機会を確保し自立を促すことを目的として「不登校児童生徒の自立支援地区ネットワーク会議」を年2回開催しています。会議では、子どもの「社会的自立」とはどのような姿なのか、また、子どもや保護者に対して誰がどのような支援ができるのかを話し合い、考えの共有を図りました。子どもに関わる大人全員が、自分ができることを考え続けることが大切です。

子どもの 「社会的自立」とはどんな姿？

- ・自分の居場所がある
- ・家族以外の人とつながっている
- ・やりたいことがある
- ・社会的ルールを守れる

それぞれの役割とは？

- ・学校ができること 〈魅力ある学校づくり〉
- ・行政ができること 〈情報提供、つなぎ役〉
- ・民間支援団体ができること
〈学校以外の居場所づくり〉
- ・地域ができること 〈関わる場の提供〉

会議で交わされた
参加者の思い

子ども、保護者、学校にとって 必要な情報とは？

- ・相談窓口、相談機関、相談ルートの情報
- ・民間支援団体の情報
- ・国の動向や法の情報
- ・同じ経験をした方からのアドバイス
- ・先生方の学びの場の紹介

「連携」とは何をすること？

- ・話ができる関係を構築する
- ・関係機関どうしが互いの取組みを知り、
それぞれができることを理解する
- ・確かな子ども理解とその共有を図る
- ・子どもや保護者のニーズに合わせて他の
関係機関に「つなぐ」ことができる

誰もが安心して学べる魅力ある学校づくりと共に、
子ども一人一人への支援の幅や可能性を広げていきましょう

「不登校児童生徒の自立支援地区ネットワーク会議」参加団体等

- 〈民間支援団体〉 フリースクールあにまる（山形市）／フリースペース雨やどり（山形市）
クローバーの会@やまがた（山形市）
まなvivaかえる家（上山市）
terra（天童市）／かぼちゃ（寒河江市）
〈親の会〉 クリエイトひがしね（東根市）
おれんじルーム（西川町）
オールグリーン（大江町）
〈高等学校代表〉 北村山高等学校／谷地高等学校
〈その他関係機関〉 村山地区市町教育委員会 他

